

# 「ポルナリ——でんせつのいきもの」

川北亮司

① 南の海の小さな島々。

日焼けした内気な漁師の少年ブブイ。

ブブイの粗末な家の壁には、父と母の遺影がかざってある。

ブブイは きょう、ようやく ひとりで ふねに のる  
ことを ゆるされました。

「みんなが びっくりするような、おおきな さかなを  
つかまえてやるよ」

ブブイは、かべに かざってある、だいすきな おとう  
さんと おかあさんの しゃしんに はなしかけました。

「おおきな さかな、おおきな さかな」

オウムが うれしそうに くりかえしました。

② 島の海岸に難破船の残骸が流れついている。

海岸に集まっている島の人たちの中に、ブブイもいる。

息も絶え絶えに話している、瀕死の遭難者。

ひどい あらしが、しまを おそった つぎの ひです。  
こわれた おおきな ふねが、はまべに ながれつきま  
した。

しまの としよりが、しらない ひとたちの はなしを、  
みんなに おしえてくれました。

「ひがしの うみで、ものすごく おおきな いきものに  
であったそうじゃ」

③ 島の海岸。ブブイと年寄り。

ブブイは、どきどきしました。

「ものすごく おおきな いきものって、でんせつに で  
てくる ポルナリの こと？」

「それは わからんが、……ポルナリは つかまえられな  
いぞ」

としよりは、ブブイの めを みて いいました。